

1 取組の目的

- (1) 芸予地震の経験をもとに、地形の特徴を確認し、自他の命を守るために必要な確な意思決定と主体的な行動力を身に付ける。
- (2) 地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育・訓練の実施に努め、学校安全に関する意識の向上を図る。
- (3) 防災士資格取得者を中核教員として位置づけ、モデル地域内における異校種間での連携や自治体、専門機関との連携など地域と一体となった取組を実施する。
- (4) 災害に関する専門家からの指導・助言により、実践的な知識を習得する。

2 取組の内容

- (1) 避難訓練 令和6年5月1日(水) 11:30～11:50 実施(雨天のため地震訓練後体育館へ避難)



地震に伴う火災(高台教棟1F食物実習室から出火)

S HR(11:30)にて訓練の目的と避難の要領を確認し、訓練概要アナウンス及び緊急地震速報(11:32)放送の指示に従い、迅速に行動した。

- (2) プロから学ぶ防災食 令和6年6月12日(水)

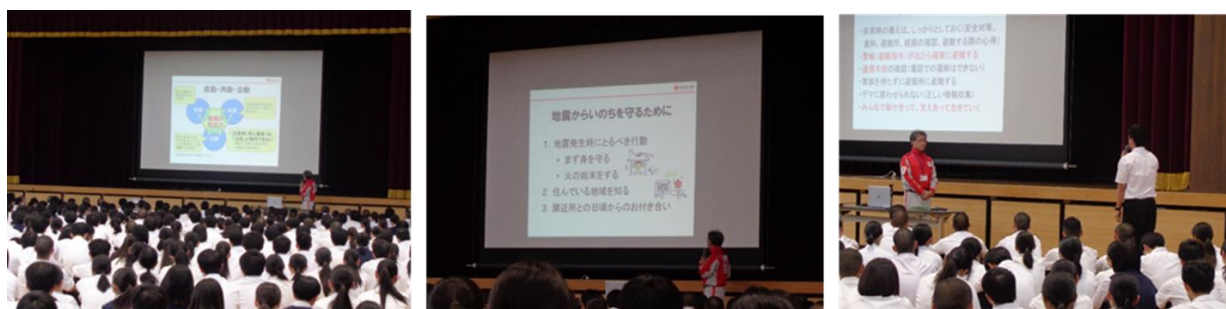


家庭科の授業「生活産業基礎」で、「防災食」をテーマに専門学校の講師から特別授業を受けた。

包丁・まな板を使わずに作る「親子丼・ミネストローネ」の実習に挑戦した。簡単でおいしく、災害時に不足しがちなたんぱく質・ビタミン・水分などが十分にとれる内容であった。

他にも「ローリングストック」や「災害時にあると便利な調理道具」、「災害時に食生活で気を付けること」などを教えていただいた。

(3) いのちの講座 令和6年6月13日(木) HR活動時に全校生徒対象



日本赤十字社愛媛県支部事業推進課から講師を招いて、災害からの命の守り方、罹災に伴う心身の苦痛の軽減の仕方、地域における災害発生時の応急対応にあたるリーダー層の育成等について講演をしていただいた。

(4) 教職員対象「マイタイムライン」使用による防災計画立案研修会

令和6年6月27日(木) 13:30~14:20



松山市防災危機管理部市民防災安全課の指導により、松山市が推奨する防災計画作成アプリ「マイタイムライン」を用いて、7月に予定されているHR活動で生徒に各自の避難計画を立てさせるための事前研修を行った。

(5) 生徒対象「マイタイムライン」使用による防災計画立案 令和6年7月11日(木) 11:40~12:25



教職員が研修を受けた防災アプリ「マイタイムライン」を用いてHR活動を行った。生徒は自分たちの居住する地域の災害発生の危険性や、避難所の確認など、洪水被害や土砂災害に対しての避難行動を立案した。

(6) 県外視察

① 神戸学院大学現代社会学部 令和6年8月21日(水)～23日(金)



神戸学院大学に防災を学ぶ学部があると伺い、現代社会学部社会防災学科教授の中田敬司先生から指導をいただいた。一言に防災といっても多岐にわたりすぎて、まず何を学びたいのかということを選定するということから始めた。阪神淡路大震災、東日本大震災に関するものや、先生のD-MATでの経験に関する資料等、大変多くの資料を準備いただき、詳しく説明いただいた。

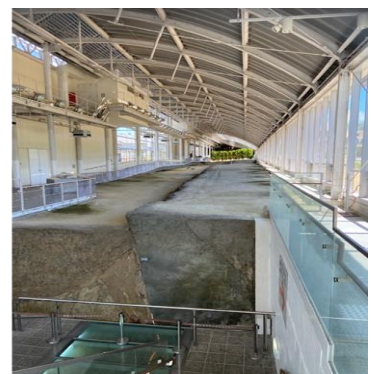
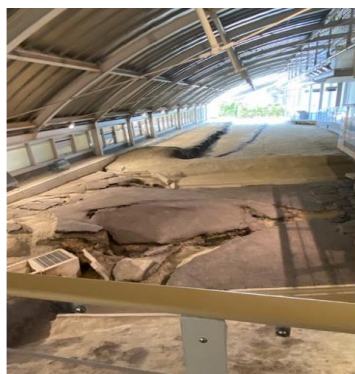
② ひとと防災未来センター 令和6年8月21日(水)～23日(金)



この施設は、阪神・淡路大震災から得た貴重な教訓を世界共有の財産として後世に継承し、国内外の地震災害による被害軽減に貢献すること、および生命の尊さ共生の大切さを世界に発信することを目的に設立された。震災追体験フロア(1.17シアター)では、地震で破壊される町や鉄道・高速道路を詳細な再現映像で復元する「5:46の衝撃」を放映している。

学校の修学旅行や、自治会・町内会等の研修にも使用されることがある。

③ 北淡震災記念公園・野島断層 令和6年8月21日(水)～23日(金)



阪神淡路大震災により、旧北淡町江崎から野島に至る淡路島北西部の海岸沿いに、現れた延長約10kmに及ぶ活断層である「野島断層」(国指定天然記念物)。

野島断層の南端に近い旧北淡町小倉地区は、断層による破壊状況が特に顕著で、生垣や畑のあぜ道の食い違いなど様々な変位地形が現れ、これらを保存する目的で平成 10 年（1988）に「北淡震災記念公園」が整備された。

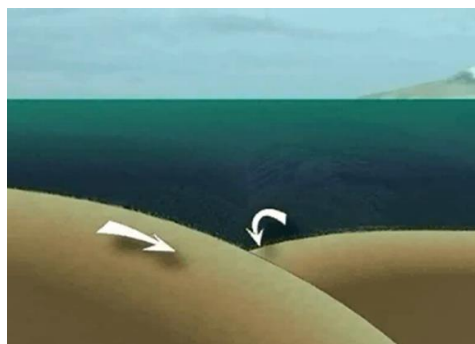
（7）緊急地震速報受信システムを活用した予告なし避難訓練 令和 6 年 10 月 11 日（金）



1 学期に行った避難訓練を踏まえて、事前の予告と準備をしない状態での避難訓練を行った。

考査終了後の S H R 時に緊急地震速報が発令するという状況を設定した。教職員は自らの命を守るとともに、生徒の身の安全を守るために、状況に応じた一時避難を促し、生徒を安全な場所（体育館）へ誘導した。

（8）教職員対象研修 先進的实践県視察報告会 令和 6 年 10 月 24 日（木）



8 月に行った先進県視察の報告会を行った。

阪神淡路大震災、東日本大震災を題材とし、神戸学院大学で学んだことを中心に報告させていただいた。生徒が自分の命を守るためには「自助」だけでなく、地域社会を基盤とする防災活動「共助」の知識が必要である。災害対応時においてその知識をもとに複雑に絡んだ難しい決断を、時には瞬時に下さなければならないような場面に遭遇する。生徒に少しでも災害のリスクや防災活動のリアルを感じ、考えさせるために、どのような場面が想定できるかをカードゲームで体験するクロスロードという教材を紹介し、先生方に考えていただいた。

(9) 文化祭「商神祭」にて防災関連資料等の展示 令和6年12月7日(土)



松山市民防災安全課の協力により、商神祭で防災関連資料展示等を行った。簡易ベッド・簡易トイレ・防災食体験コーナーを設置し、ベッドの耐久性や簡易トイレの使用方法を来場者に体験していただいた。能登半島地震の写真を展示し、実際に現地でボランティア活動をされた市民防災安全課からの説明には、多くの一般参加者が足を止め聞き入っている様子から、防災への意識の高まりが感じられた。

(10) シェイクアウトえひめ 令和6年12月17日(火)



「えひめ防災週間(12月17日～23日)」中の12月17日(火)午前11時から、「シェイクアウトえひめ(県民総ぐるみ地震防災訓練)」を実施した。

シェイクアウト訓練は、地震発生の際にまずとるべき行動を身に付けるとともに、防災意識を高めるために有効な訓練である。授業担当者の指示のもと、訓練音声に合わせて速やかな避難行動がとれていた。

(11) 東雲地区自主防災連合会総合防災訓練 令和6年12月8日(日)



松山市立東中学校にて、東雲地区防災訓練に有志生徒7名が参加した。消防署の方の指導により、地域の方々と協力しながら応急給水栓やマンホールトイレの使い方などの体験、訓練を行った。

参加生徒は少数ではあったが、積極的に活動し、主催者の方からお褒めの言葉をいただいた。

3 取組の成果

- (1) マイタイムラインによる生徒各自の居住地の避難計画立案、緊急地震速報受信システムを活用した予告なし避難訓練など、生徒にとって新鮮な取り組みであり、経験による知識理解が深まった。
- (2) 1と同様に、地域や異校種間、松山市の防災課との連携をとることにより、新たなつながりや今後の協力体制の構築が図られた。
- (3) 多くの専門家の方々からご指導をいただき、実践的な知識の習得と、命を守ることの大切さを再確認できた

4 今後の課題

生徒各自の居住地の避難計画を立てることや、予告なし避難訓練は、HR活動などを活用して継続させる必要がある。避難計画については、自主的に各家庭で計画し、家族で周知できることが望ましい。避難訓練も、今後はさらに生徒の判断力を養える状況設定で行えるようにしたい。